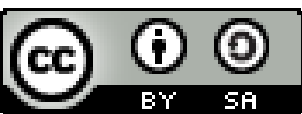




令和5年度 日本博物館協会第2回研究協議会「これからの『対話と連携の博物館』」
博物館と図書館 ML(A)連携の可能性」

地域資源の価値共有による地域創生を目指して ～信州 知の連携フォーラムの取組～



2024年3月6日(水) 13:50～14:40
県立長野図書館長 森 いづみ

このスライドは イベント終了後 Researchmapで公開いたします
<https://researchmap.jp/izumimi/>

イントロダクション: 自己紹介

		受入	目録	電子化・ オープンアクセス	参考調査	相互貸借	教育支援	広報	博物館・ 文書館
東京大学駒場図書館 1991年～	5年	外国雑誌							
東京大学総合図書館 1996年～	3年				レファレンス		情報リテラシー	冊子	
東京大学情報基盤センター 1999年～	1年						情報リテラシー		
三重大学附属図書館 2000年～	7年		目録	機関リポジトリ	レファレンス	現物貸借	情報リテラシー	Web 冊子	
国立情報学研究所 2007年～	6年		NACSIS- CAT	SPARC, CiNii 機関リポジトリ CLOCKSS		NACSIS-ILL	研修	Web 冊子	
お茶の水女子大学 附属図書館 2013年～	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメント ・主な事業: 学習支援・学生協働、図書館改修計画、入試改革: 図書館入試、事務情報、学内MLA連携 (内なるトライアングル) 							歴史資料館
信州大学 附属図書館 2017年～	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメント ・主な事業: 電子ジャーナル、オープンアクセス、大学創立70周年・旧制松本高校設立100周年記念 事業、図書館改修計画(教育、農学部)、MLA連携「信州 知の連携フォーラム」(外なるトライアングル) 							大学史資料 センター
県立長野図書館 2020年～	4年目	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメント ・主な事業: コロナ禍の経験を踏まえた「ミッション・ビジョン」策定、長野県eLibrary構想(電子書籍導入、信州ナレッジ スクエア等)、MLA連携「信州 知の連携フォーラム」、「信州・学び創造ラボ」を介した新たな空間・コミュニティづくり、 各種研修事業 							

イントロダクション: 令和2年度ミュージアム・マネジメント研修

令和2年度
ミュージアム・マネジメント研修
(主催:文化庁)
講義VI
【社会教育施設の視点から】

MLA連携の可能性:
「信州 知の連携フォーラム」の
実践を中心に

令和2(2020)年12月

1. 博物館と図書館(類似点・相違点)

- 1.1 憲法に基づく法体系の中での位置づけ
- 1.2 図書館独自の宣言・定義等

2. コロナ禍で見えてきたこと・目指すべき方向性

- 2.1 コロナ禍で起きたこと
- 2.2 コロナ禍で見えてきたこと
- 2.3 長野県eLibrary構想(たたき台)に向けて

3. 信州 知の連携フォーラムの取組

- 3.1 「信州 知の連携フォーラム」とは
- 3.2 フォーラムを通じて改めて見えてきたこと
- 3.3 「知的創造の基盤」としての「信州ナレッジスクエア」

4. 現在・未来の人々に私たちが示せる価値を考える

- 4.1 saveMLAKの呼び掛け
- 4.2 「信州 知の連携フォーラム」からのメッセージ

5. まとめ

<https://researchmap.jp/izumimi/presentations/31426982>

イントロダクション: 「博物館法」の改正

- 令和4年の第208回国会(通常国会)において、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- 施行期日:令和5年4月1日
- 博物館法の制定から約70年が経過するなかで、博物館を取り巻く状況は大きく変化し、博物館に求められる役割も多様化・高度化。「博物館制度の今後の在り方について(答申)」を踏まえ、法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直している。

博物館法の一部を改正する法律の概要



趣旨

近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、博物館の設置主体の多様化を図りつつその適正な運営を確保するため、**法律の目的や博物館の事業、博物館の登録の要件等を見直す**など、これからの博物館が、その求められる役割を果たしていくための規定を整備する。

概要

I 法律の目的及び博物館の事業の見直し

- 博物館法の目的について、社会教育法に加えて文化芸術基本法の精神に基づくことを定める【第1条】。
- 博物館の事業に博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加するとともに、他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むことを努力義務とする【第3条】。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/kankei_horei/93697301.html

博物館資料のデジタル・アーカイブ化が追加。
「地域の活力向上」に向けて、多様な主体との連携が不可欠に

本日の内容

- 「信州 知の連携フォーラム」で取り組んできたこと
- デジタルアーカイブ「信州デジタルコモンズ」のご紹介
～情報システム基盤の構築・維持・展開～
- 地域資源の価値共有による持続可能な地域創生を目指して

信州 知の連携フォーラムとは①

● はじまり

- 2016年、長野県立歴史館、長野県信濃美術館（当時）、信州大学附属図書館、県立長野図書館の四者でスタート

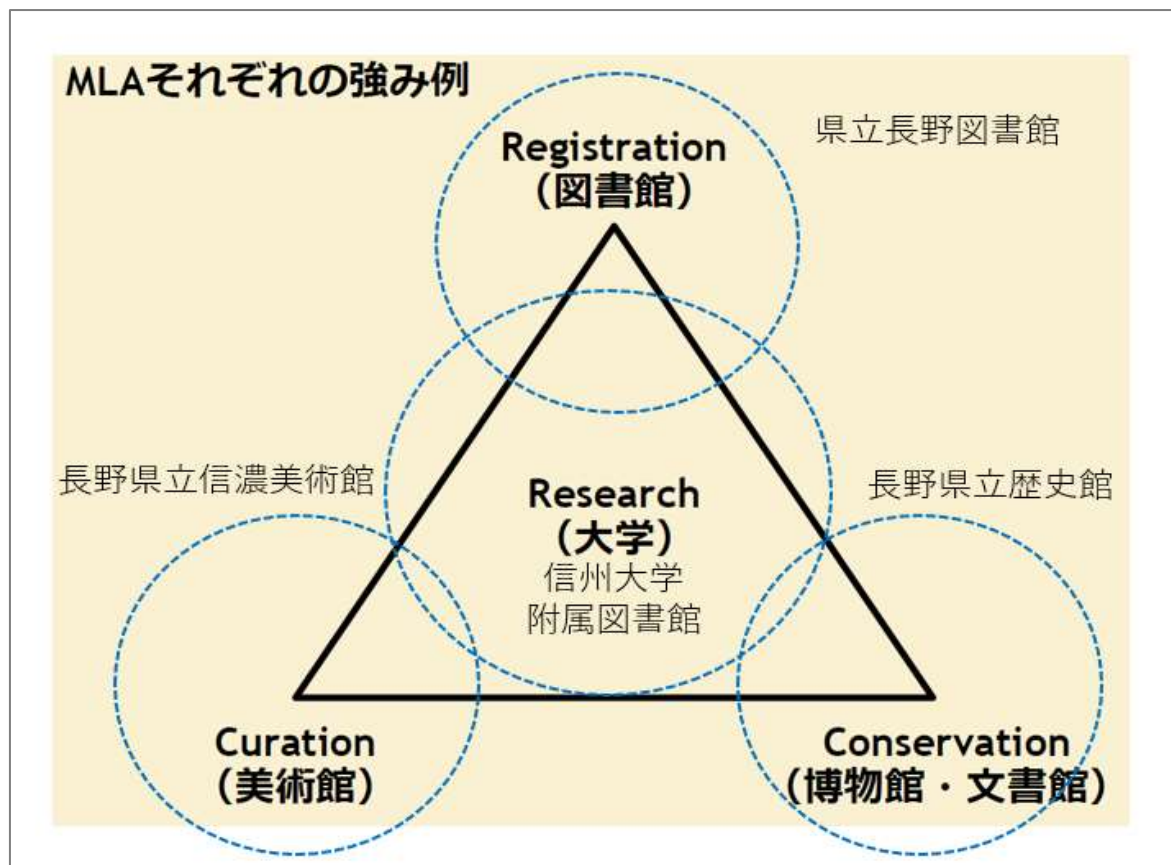
● 目的

- 長野県における知と学びに関わる各種機関が、
- 信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、
- 地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく

● 方向性

- ① 電子情報の共有化と新たな発信の展開
- ② ①に伴う新たな人材育成

※ 第4回 信州 知の連携フォーラム「わがまち・わが館 お宝情報発信術 -信州ナレッジスクエアの育て方-」（2020年9月28日）
ご挨拶 <http://hdl.handle.net/10091/00022284>



- それぞれの機関における強みと弱み (どういう部分ではリーダーシップがとれるか) について
- 試みとして、フォーラムに参加している4館の強み例をまとめたもの

「長野県デジタルアーカイブ推進事業」の成果で構築されたデジタルアーカイブ「信州デジくら」(2010年開始)のあり方について、考える場でもあった

※ 渡邊 匡一. “信州におけるMLA連携で聞いてみたいこと、考えてみたいこと”. 信州知の連携フォーラム第1回 (2016年12月13日) <http://hdl.handle.net/10091/00019335> より発表者が作図

※ 森いづみほか. 「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み：長野県内の図書館・美術館・歴史館の取組. 「大学図書館研究」112巻 (2019.8) <http://hdl.handle.net/10091/00021766>

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

● 方向性① 電子情報の共有化と新たな発信の展開

- ✓ 「信州デジくら」を引き継ぐ「信州 知のプラットフォーム構想」が2020年に「信州ナレッジスクエア」として実現
 - プラットフォーム(システムの基盤)を県立図書館が受け持つことで、他の機関(県や市町村のMLA)は、コンテンツ創りや活用に注力
 - 重複コスト(サーバの維持管理等)を省き、トータルコストを下げながら、県民と共に豊かな共有財を育てることができる

「信州ナレッジスクエア」

1. 信州サーチ: 信州に関わるデジタルアーカイブ、データベース、ウェブサイトの横断検索
2. 信州デジタルコモンズ: 県立の文化施設が所蔵する資料のデジタル化に加えて、信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し「知の共有地」として活用するためのデジタルアーカイブ
3. 想・IMAZINE・信州: 言葉や文章から連想して、複数のデータベースを検索
4. eReading Books: 高校の探究学習『わたしたちの信州学』や、小学校の副読本(『わたしたちの松川村』、『池田町ものがたり』等)のテキストから、新書マップやWikipediaの情報と繋がる
5. 信州ブックサーチ: 長野県内図書館OPACの横断検索システム→電子書籍2種も対象に



<参考>「信州ナレッジスクエア」／「信州サーチ」について



信州サーチ 「情報発見」の仕組み

24のデータベース、アーカイブが検索対象（今後も、対象を拡張予定）

- アーカイブ
 - 信州地域史料アーカイブ（NPO長野県図書館等協働機構）
 - 信濃史料データベース（長野県立歴史館）
 - 木曾町図書館デジタルアーカイブ（木曾町図書館）
 - ジャパンサーチ（国立国会図書館）
 - 伊那市デジタルアーカイブ（伊那市）
 - 信州デジタルcommons（県立長野図書館）
 - 軽井沢町立図書館デジタルアーカイブ（連携準備中）

※「信州サーチ」検索対象一覧：

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/search.html>

<参考> 「信州サーチ」(つづき)

● 収蔵情報

- 長野県立歴史館(文献史料)(絵図・地図)(図書)収蔵品データベース
- 長野市立博物館Web公開システム(長野市立博物館)
- 真田宝物館収蔵品データベース(真田宝物館)
- 飯田市立図書館所蔵貴重資料(飯田市立図書館)
- 松本まるごと博物館収蔵品(松本市立博物館)

● 図書・論文

- 全国遺跡報告総覧(奈良文化財研究所)
- レファレンス協同データベース(国立国会図書館)
(トップページ下部・テーマから探す → 「地名:長野県」が対象)
- 信州ブックサーチ(県立長野図書館)

● 文化財

- 松本のたから(松本市の文化財)(松本市)

● リポジトリ

- 信州共同リポジトリ(信州共同リポジトリ)

● 文化・芸術情報

- CULTURE.NAGANO(カルチャー・ドット・ナガノ)(長野県)

県内で多く活用されている
d-commonsが
横断検索先として実現!

- みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム(長野県下諏訪町立図書館)
- みんなでつくる西部地域デジタルマップ(西部地域まちづくりの会 [長野県上田市])
- みんなでつくる信州上田デジタルマップ(長野大学信州上田学プロジェクト)
- みんなでつくる蓼科学アーカイブ(長野県蓼科高校「蓼科学」+長野大学前川研究室)
- eduスクウェア(長野大学eduプロジェクト)

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

● 方向性② ①に伴う新たな人材育成

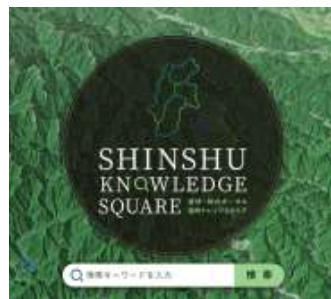
- ✓ 2016年以降、毎年フォーラムを開催
- ✓ 第3回以降、各館がリレー式で実務的なワークショップを開催し、顔の見える関係性を築いてきた



第1回～第2回
フォーラム
2016～2017年度



第3回フォーラム
(第1回リレーWS)
2018年度@信大図書館



「信州ナレッジスクエア」
構築2019年度
@県立図書館



第4～6回フォーラム
(第2～4回リレーWS)
2020～2022年度
@図書館、歴史館、美術館



記憶<データ>を
未来へ
信州からはじまる
文理融合の
デジタルアーカイブ

第7回フォーラム
(リレーWS2週目)
2023年度@信大図書館

2020年6月共同メッセージ
過去・現在を未来へと架橋する
「知のインフラ」を考えていくために

2024年2月ミッションステートメント
地域資源の価値共有による地域創生
を目指して～過去・現在を未来へと架橋するために

個々の機関の
立場からの発言

互いを知るためのWS(人材育成)
共有できる情報システム基盤の開発

情報システム基盤の活用を前提とした展開・
人材育成・フォーラムの間口をいかに広げていくか

MLA連携の定義と意義

● MLA連携の定義

- ミュージアム (Museum) ・図書館 (Library) ・文書館 (Archives) の連携のこと。それぞれの頭文字をとってMLAと呼ばれる。いずれも文化的情報資源を収集・蓄積・提供する公共機関であるという共通点を持ち、情報資源のアーカイブ化等の課題を共有していることから、近年、連携の重要性が認識されてきている。

※ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像」平成22年(2010)年12月

- MLA 連携とは、デジタルアーカイブとインターネットによって、MLAの分化という総合の喪失から総合の回復へと向かうことである。

※ 水谷長志. 特集, 美術に関する知の蓄積と共有化において: 人と美術の関わり of 豊かさとその語りの確かさのために: 極私的 MLA 連携論変遷史試稿. 美術フォーラム21. 2017, vol. 35. p.127-134

● MLA連携の意義

- ✓ ある目的のために、博物館資料・図書館資料・文書館資料にかかわりなく、そのすべてを利用したい利用者は少なくなかろう。
- ✓ 同じくメディアを扱う機関が博物館、図書館、文書館に分かれているのは、利用者の都合ではなく、各館の都合である。
- ✓ MLA連携・融合によるワン・ストップ・サービスが求められているといえる。デジタル技術とネット環境の発展・普及が、このようなサービスを後押ししている。

※ 田窪直規. “博物館・図書館・文書館の連携, いわゆる MLA 連携について”. 博物館・図書館・文書館の連携. 日本図書館情報学会研究委員会編. 東京, 勉誠出版, 2010, p.1-22 (図書館情報学のフロンティア, 10)

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと①

- MLAの違いについては、当初からお互いに認識があった
 - ・ MLAは特性があり、扱っているメディアの唯一性、不可分性、代替可能性の観点で分類できる
 1. 唯一性・不可分性が高く代替可能性が低い資料： 博物館・美術館
 2. 唯一性・不可分性が低く代替可能性が高い資料： 図書館
 - ・ 共通のデジタル情報基盤（プラットフォーム）を構築する際は、こうした特性を考えなくてはならない
 1. メディア自体をデジタル化（画像化）して共有可能とすること
 2. メタデータ（デジタル化されたメディアの内容や形などを説明するデータ）を整備することの二つの方策が必要。

※ 平賀 研也. “戦略的MLA連携による地域創生”. 信州知の連携フォーラム第1回（2016年12月13日）
<http://hdl.handle.net/10091/18094>

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと②

● 共通点より相違点が顕著に。要因は・・・

- ・ 価値観の違い？ 学芸員、図書館員（司書）、行政職、教員、研究者、市民など、多様な価値観（研究／サービス、保存／利用、文化政策／観光政策／社会教育政策、コスト重視 etc.）
- ・ 扱うモノの違い？

→博物館（文書館）：一点物の資料、図書館：複製物が多い

- ・ 資料（メディア）：何らかのメッセージを伝えるもの
- ・ メッセージ：記号列で構成←記号は単なる形（パターン）
- ・ 記号を実体化させるものが必要→キャリアー
- ・ 資料＝メッセージ＋キャリアー（新聞＝新聞記事＋新聞紙）

※田窪直規「図書館情報学と博物館情報学：両者の目録に注目して」情報組織化研究グループ
2014年12月月例研究会（2014年12月13日）
<http://josoken.digick.jp/meeting/2014/201412.html>

デジタル化して
ネットで見られたら、現物を見に来る動機が低下する!?

- 博物館・美術館が扱うモノ：メッセージとキャリアーが切り離せない
- 図書館が扱うモノ：キャリアーが異なってもメッセージを伝えられることが多い
- モノに対する意識の違い＝デジタル化やネットワーク経由での提供に対する意識の違い

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと③

● 利用者の視点

- ・ 「私はお寺の調査をずっとやっていて、実際にそこで対象にするのはML全てです。文書が読めなければ研究できないし、置いてある絵画が扱えなければ、その時代に過ごした人々の姿が見えない。学生のころからずっと、調査をしたり論文を書いたりする時には、博物館に行き、図書館に行き、美術館に行ってみせてくれと言ってダメと言われて…というのががあるので、積年の恨みがどこかにある(笑)。だから、ぜったい連携させてやるという想いが個人的にあります。」 (発起人の一人:信州大学渡邊館長)
- ・ 元々一緒にあった MLA が、様々な歴史的経緯で別々に管理されるようになった事情が伺える。
- ・ 「MLA 連携が注目されて10年も経つのに、未だにこんな苦勞をさせているのか」と忸怩たる思い。

● 我々は、何のために・誰のために存在しているのか？

→ 本質への立ち返りと相互理解の必要性を痛感

- ・ 第1回、第2回の経験を踏まえ、第3回フォーラムはワークショップ形式に転換
- ・ テーマ:寺社の MLA を体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～
1日目:和古書(刊本)の目録作り、2日目:お寺での寺宝見学と写本の目録作り

※ 森いづみほか. 「信州 知の連携フォーラム」におけるMLA連携の試み:長野県内の図書館・美術館・歴史館の取組.
「大学図書館研究」112巻(2019.8) <http://hdl.handle.net/10091/00021766>

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

● 第3回(信州大学附属図書館) 2019年3月8日(金)~9日(土)

【ワークショップ】信州大学中央図書館セミナー室 【オプション】佛法紹隆寺(諏訪市)

- 寺社のMLAを体験する~地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する~

※ 鈴木 映梨香,羽生将昭ほか.MLAリレー式ワークショップその1:寺社のMLAを体験する~地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する~.信州大学附属図書館研究.9:213-222(2020)

<https://hdl.handle.net/10091/00021860>



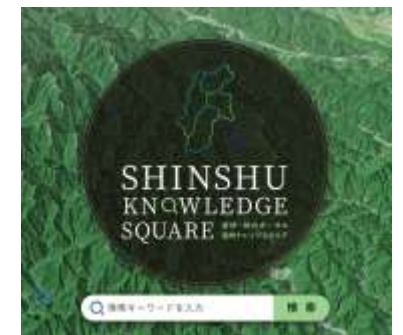
● 第4回(県立長野図書館) 2020年9月28日(月) 県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボ

- わがまち・わが館 お宝情報発信術 —信州ナレッジスクエアの育て方—

※伊東 洋輔,折井 匡,清水 茜,進地 律子『「信州 知の連携フォーラム(第4回)」参加報告 わがまち・わが館 お宝情報発信術 —信州ナレッジスクエアの育て方—』<https://hdl.handle.net/10091/0002000142>

※ 篠田 尚利『「信州 知の連携フォーラム(第4回)」報告 わがまち・わが館 お宝情報発信術 —信州ナレッジスクエアの育て方—』

<https://hdl.handle.net/10091/0002000141>



「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

- 第5回(長野県立歴史館) 2021年11月11日(木) 県立歴史館 講堂
 - 信州の未来を担う世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか

※ 萩原 泰子, 羽生 将昭(信州大学附属図書館)「信州 知の連携フォーラム(第5回)」参加報告『信州の未来を担う 世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか』

<https://hdl.handle.net/10091/0002000722>

※ 中野 亮一, 村石 正行, 宮坂 到(長野県立歴史館)「信州 知の連携フォーラム(第5回)」報告『信州の未来を担う世代に、地域資源(史資料)の大事さ・魅力をどう伝えるか』

<https://hdl.handle.net/10091/0002000721>



書状のサンプル

- 第6回(県立長野図書館) 2022年2月21(火) 長野県立美術館

- 資料のデジタルアーカイブ化と公開について
 - 松澤宥アーカイブの信州デジタルコモンズでの公開を事例に



松澤宥展
出品No.2-010

※ 木内 真由美. “資料のデジタルアーカイブ化と公開について—松澤宥アーカイブの信州デジタルコモンズでの公開を事例に—”. 信州知の連携フォーラム第6回 (2023年2月21日) In print

「信州 知の連携フォーラム」(長野県のMLA連携)の取組と成果

- 第7回(信州大学附属図書館) 2023年12月7日(木)信州大学中央図書館セミナー室
 - 記憶<データ>を未来へ～信州からはじまる文理融合のデジタルアーカイブ～

※ 東城 幸治(信州大学)『自然科学館の「お宝」生物標本の利活用
—標本は過去をめぐるタイムマシン—』

<https://hdl.handle.net/10091/0002001800>

※ 富樫 均(いいつな歴史ふれあい館)『全県地質情報の収集と統合
—事業提案から実現までの道のり—』

<https://hdl.handle.net/10091/0002001799>

※ 岩井 雅史(信州大学附属図書館)『信州大学附属図書館のデジタル
アーカイブの現在とこれから』

<https://hdl.handle.net/10091/0002001801>



東城館長発表スライドより

- 各回の発表資料:信州大学の機関リポジトリ(SOAR-IR)で公開
- 各回の報告:『信州大学附属図書館研究』に掲載、SOAR-IRで公開

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと④

● 館の経営と「来館利用」の重要性

● 図書館法：無料の原則

● (入館料等)

第十七条 公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。教育基本法に謳われる「国民の教育の機会均等」に基づき、基本的な利用が無料であることが最低要件

● 博物館法：無料の原則と例外規程

● (入館料等)

第二十六条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。ただし、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

● (参考：公文書館法)

● 入館料等に関する規定なし→自治体が定める条例(例：安曇野市文書館条例には対価に関する条項なし)

デジタル化の目的は？
来なくても見られること
だけ？ 意味付けは？

扱うモノの特質・「来館利用」の持つ重みを、どう考えるのか

※ 図書館にとっても、資料群と人が集まる空間・場の持つ意味は大きい

フォーラムを通じて改めて見えてきたこと⑤

● 館が介在して、資料(情報)と人、人と人を繋げる

● 物理的な場所の提供

- ✓ 図書館: 閲覧室、展示コーナー、コミュニケーションスペース
- ✓ 博物館・美術館: 展示室、etc. …?
- ✓ 公文書館: 展示室、閲覧室、etc. …?

● 直接・間接的な人的サービス

- ・ 図書館: レファレンスサービス・レフェラルサービス、展示、講演会etc.
- ・ 博物館・美術館: 企画展示、講演会、ギャラリートークetc. …?
- ・ 公文書館: 企画展示、講演会、ギャラリートークetc. …?

アウトリーチ活動:
公民館や
学校等への
出張講座

さまざまな
ワークショップ等

● デジタルを活用し、資料(情報)と資料(情報)、資料(情報)と人、人と人を繋げる

- 目録情報の共有化・横断検索→まず存在を知ってもらう
- モノの電子化(=現物の保全にも有効)・蓄積・公開(付加価値サービス)→魅力を知ってもらう

視点の転換:モノ中心から学習者・鑑賞者・利用者中心へ

※ 保全/利用、来館/非来館、フィジカル/デジタル等、二項対立ではなく、
両立や相乗効果の道を探る必要性

※ 現物そのもの、風景そのものが失われていく可能性があることへの視座

デジタルで全てが
解決するわけではないが、
空間・時間、組織の壁を越えた
リレーションシップが生み出せる
という強みを持つ

大人も子どもも、「好き」や「面白い」、「体験」から始まる学びへ



ColBase 博物館・研究所を選ぶ Language

Top > 四季草花小禽図屏風 ColBaseについて 利用規約 ヘルプ データセット

四季草花小禽図屏風
しきそうかしょうきんずびょうぶ

大きな樹木を描かずに、溪流に続く水辺に草花と小禽や虫を配したいわゆる「四季花鳥図屏風」。岩の表現などから狩野派の絵師による作品と考えられ、安土桃山時代絵画の特色につながる豪壮華麗な画風の萌芽がうかがえる。

📖 詳細情報

種別 絵画 > 日本 > やまと絵

📄 作品画像一覧ページ

📄 ダウンロード 利用規約 > 文化財指定

国立文化財機構所蔵品統合検索システム: ColBase

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-12188



水谷長志編著
『博物館情報学シリーズ：ミュージアム・ライブラリとミュージアム・アーカイブズ』
樹村房
(2023)



例えば
井上重四郎著
『掛軸・額・屏風のつくり方：表装・表具入門』
金園社
(1985) 等

お気に入りの絵をDLして
屏風作る会
やってみる？

東京国立博物館特別展示『やまと絵(受け継がれる王朝の美)』図録

本日の内容

- 「信州 知の連携フォーラム」で取り組んできたこと
- デジタルアーカイブ「信州デジタルコモンズ」のご紹介
～情報システム基盤の構築・維持・展開～
- 地域資源の価値共有による持続可能な地域創生を目指して

「信州デジタルコモンズ」概要

- 2010年4月～企画推進部情報政策課（現・DX推進課）が運用開始した地域文化の総合情報サイト「信州デジくら」が前身
 - 2020年4月～県立長野図書館がほぼ全てのコンテンツを引き継いで、リニューアル
 - 県立の図書館、歴史館、美術館が所蔵するコンテンツのほか、地域の自然文化民俗に関わる動画を公開
 - コンテンツ数:5,160点
 - 「二次利用可能」なコンテンツ:4,481点(2024.2時点)
- ※ 著作権保護期間が満了した「パブリックドメイン」のものが多く、コンテンツ提供者の意向によって柔軟に対応している。コンテンツの二次利用がしやすい公開法や、ジャパンサーチ等とのつなぎ役が評価され、2023年度のデジタルアーカイブジャパン・アワードを受賞。

The screenshot displays the website's interface. At the top, there is a navigation bar with the site name '信州デジタルコモンズ' and a language selector set to '日本語'. The main content area features a large, colorful historical map of Echigo Prefecture, titled '筑摩県博覧会図' (Echigo Prefecture Exposition Map). Below the map, there is a search bar with the text '資料を探す' (Find materials) and a search button. Underneath the search bar, there are four search filters: '資料種別検索' (Search by material type), '分野検索' (Search by field), '時代検索' (Search by era), and '市町村地図検索' (Search by city/town/village map). At the bottom of the search interface, two statistics are displayed: 'インターネットで閲覧できるコンテンツ5,160点' (5,160 contents accessible on the internet) and '二次利用可能なコンテンツ4,481点' (4,481 contents available for secondary use).

(株) 寿限無のデジタルアーカイブシステムで構築

<https://www.ro-da.jp/shinshu-dcommons/>



「信州デジタルコモンズ」 詳細検索画面

詳細検索

キーワード検索

生坂村



タイトル

キーワード、資料タイトルや
制作者のほか、
資料種別、分野、時代、
場所(市町村)で検索可能

制作者

資料解説

分野

資料種別

時代

場所(市町村名)

施設名：
現在は図書館、歴史館、美術館の
3館のみ
現在、「松澤宥デジタルアーカイブ」
「安曇野市公文書館」のコンテンツ
登録に向けて調整中

施設名

県立長野図書館

長野県立歴史館

長野県立美術館

ライセンス検索

CC0(PUBLIC DOMAIN)



CC-BY-NC



CC-BY-NC-ND



(C) ©

コンテンツ種別

画像

動画

PDF

ライセンスやコンテンツの種別
でも検索可能

検索

クリア

※キーワードを入力しなくても、条件のみで検索可能

「信州デジタルコモンズ」 検索結果一覧画面

ホーム / 詳細検索 / 検索結果

検索結果: 3件中1-3件を表示

県立長野図書館の資料2件、
県立歴史館の資料1件がヒット

絞り込み検索

< 1 >

リスト表示

サムネイル表示

マップ表示

表示件数

50

ソート順

タイトル順

タイトル	分野	場所	発行日	制作者/作家名	登録日	二次利用条件	施設名
北安曇郡第一回衛生会々議 日誌	歴史 習俗	大町市 池田町 松川村 白馬村 小谷村 生坂村	1881	不明	2021-08-02	PUBLIC DOMAIN	県立長野図書館
生坂村絵図面	歴史 建造物	生坂村	1885	長野県	2021-08-02	PUBLIC DOMAIN	長野県立歴史館
長野県種苗一覧表 第一農 商課→	歴史		1888		2021-08-02	PUBLIC DOMAIN	県立長野図書館

< 1 >

詳しく見たいコンテンツをクリック

「信州デジタルコモンズ」 検索結果詳細画面

生坂村絵図面

コンテンツ



メタデータ



資料コード 03MP0801060150

タイトル 生坂村絵図面

分野 歴史 建造物場所(市町村名) 生坂村

制作年(西暦) 1885

制作年(和暦) 明治18年

時代 明治

制作者 長野県

制作者(ヨミ) ナガノケン

大きさ 27×69

資料解説

二次利用条件 

コピーライト 長野県立歴史館

施設名 長野県立歴史館

● 利用の観点から

- タイトルのほか、
分野:「歴史」「建造物」、
場所:「生坂村」
時代:「明治」
などの情報をメタデータに入れて
おけば、検索や絞り込みに使える

● 構築の観点から

- リッチなメタデータを入れること
によって、利便性や発見可能性
が高まる半面、データ作成の
ハードルが上り、公開までに時
間とコストを要することになる
- ハードルを下げるため、メタデー
タ入力の必須項目は最小限、
「資料コード」と「タイトルのみ」
にしている
- 両者のバランスは、各コンテンツ
提供者の判断に委ねる

「信州デジタルコモンズ」コンテンツの活用例



「信州デジタルコモンズ」で見える明治18(1885)年の学校の位置



Google Mapで見る令和6(2024)年の学校の位置

調べていくと紙の資料に辿り着くこともしばしば。頼りになるのは司書さんや学芸員さん

さまざまな電子コンテンツを組み合わせ学校歴史を学ぶことが可能



「デジとしよ信州」(電子書籍)の『生坂村誌(歴史・民俗編)』で学校の歴史を確認



回転や拡大ができる

駒ヶ根市東伊那公民館における「区誌」編さんとの連携

春日館長発表資料

「公民館を拠点とした地域住民による区誌編纂の取り組み
～図書館と連携した地域資料のデジタル化事業を核として～」

令和5年度長野県図書館協会
公共図書館部会館長研修
(2024.9.15)

これって、
「公民館の仕事なの？」
図書館？博物館？学校？
従来の縦割りの役割の中に
閉じていたら、こぼれ落ち、
失われてしまうおそれ

大切なのは、
互いの強みを生かしながら
仲良くすること！
地域の人たちが主役！
(当事者性)

現在 編集作業進行中



A4オールカラー
500ページ(3分冊)



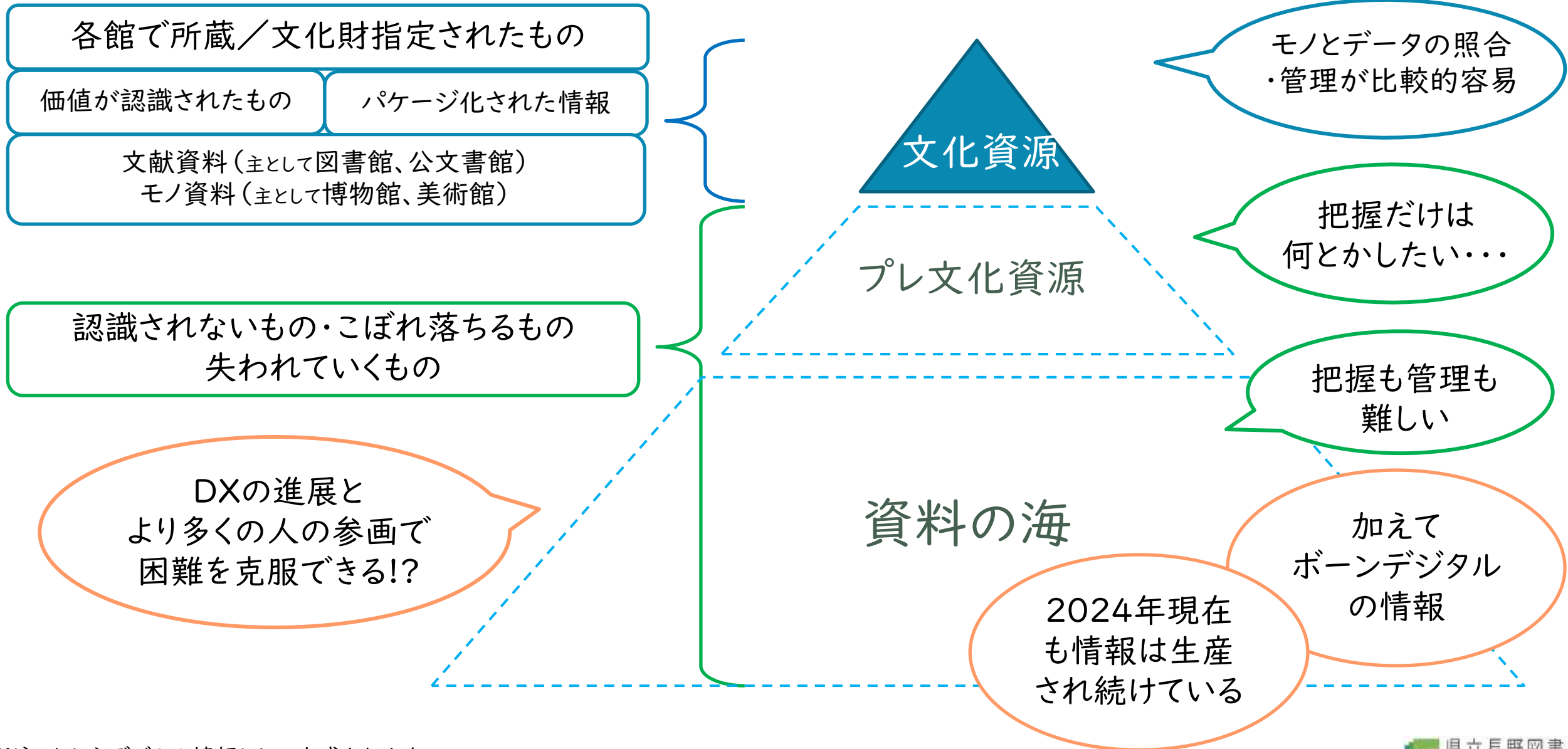
ICTで資料のデジタル化も

県立長野図書館のご協力により、今回ご提供いただいた古文書などをデジタル化して「信州デジタルコモンズ」へ登録します。誌面ではご紹介できない資料もQRコード読み取りにより、より多くの情報をご覧いただけるようになります。

テストサイト
QR



地域文化資源とプレ文化資源 (次世代型文化施設フォーラム「提言」より)



※初めからデジタル情報として生成されたもの

「信州デジタルコモンズ」登録できるコンテンツ

● コンセプト

信州の人々が営んできた身近な生活の記録を画像や映像で残し、「知の共有地」として活用するデジタルアーカイブ

● 登録対象資料

1. 前身の「信州デジくら」登録資料、及び「信州デジくら」参加機関が新たに作成したもの
2. 1. 以外の図書館、博物館、美術館等の機関（以下「機関等」という）が所蔵する情報資源
3. 個人・団体が所蔵する情報資源で、長野県に関する調査研究の対象となるものや地域の記録を後世に伝えることに資するもの

● 登録できるファイル形式：

- 画像、音声、動画、PDF

● 規程 <https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal/guide.html>

- 「信州デジタルコモンズ」運用規程
- 「信州デジタルコモンズ」のデータ登録に関する確認事項

「信州デジタルコモンズ」登録の申請

(様式 1)

令和 年 月 日

(デジタルアーカイブ登録申請書)

県立長野図書館長 あて

申請者 (機関名)

(所在地)

(代表者名)

「『信州デジタルコモンズ』のデータ登録に関する運用規程」で定めるコンテンツ及びメタデータの扱いを了解し、下記の情報資源について「信州デジタルコモンズ」で公開したいので申請します。

記

1 情報資源の所蔵者 (該当する方を選択)

自館資料 公開の委託を受けた資料

2 種類 (書籍・文書・写真等の別) 及び点数

3 担当部署及び担当者名

● 申請書類

- 機関名、所在地、代表者名等を明記して申請→図書館長名で、申請の受理と管理IDを通知
- 公的機関の所蔵物である必要はない
- 例えば民間団体が所有しているコンテンツの場合、公的機関と組んで申請できる
- 「自館資料」以外に、「公開の寄託を受けた資料」が登録できる

【事例】 松澤宥アーカイブの場合

- 松澤宥アーカイブ運営委員会を設置 (委員会の規程を作成) いただいたうえで、申請していただいた
- 連絡窓口や、デジタルアーカイブに搭載するコンテンツの権利処理等、責任の所在を明らかにすることによる持続性や安全性の確保が目的
なるべく柔軟に対応する

地域における「知識循環・知的創造の基盤」として



- 地域の取組にデジタルアーカイブが活かされるケースをモデル化⇒横展開
 - ✓ デジタルアーカイブを活用した学びが展開
 - ✓ 学びの成果がデジタルアーカイブに蓄積
 - ✓ 知の循環を促していく
- 地域ごとに目的に合致したシステム基盤を持つのが理想的
 - ✓ 現実的には・・・様々なハードル
 - ✓ 予算が無い、人がいない、数が少ない
 - スタートアップとしてのシステム基盤と伴走
 - 継続が難しくなった場合のセーフティネット

使命 (Mission)

県立長野図書館は、「共に知り、共に創る広場」として、
信州に関わるすべての人々が「自由に考え、意見を表明し、社会に参画し、意思決定することで、
個人と社会の幸福を追求する」という、民主的社会的な普遍的な価値を支えるため、
人類社会の文化的な発展と平和な世界に、将来にわたって寄与しつづけます。

展望 (Vision)

- 「知る」・・・情報の改革: いつでもどこからでも、時間と空間を越えて、すべての人々が等しく情報入手し、活用し、成果を発信できるよう、人生を豊かにする創造的な学びの情報基盤を整え、情報格差を解消し、次世代へと継承していきます。
- 「出会う」・・・場の革新: 考え、対話し、体験することを通じて獲得できる「実感ある知」の循環を生み出し、新しい価値を創り出すために、実空間と情報空間が融合する、開かれた場を形成します。
- 「育む」・・・人の変革: いかなる社会変化にあっても、「知る自由」「学ぶ自由」を保障する図書館の本質的機能を、技術革新を取り入れながら最適化し、最大限活用できる人づくりに貢献します。

行動指針 (Value)

協働します: (Collaboration コラボレーション)

県内外の図書館や各種の文化施設・社会教育施設を始め、広く教育・学术界、産業界や社会的活動を行う人々と力を合わせます。

接続します: (Connecting コネクティング)

さまざまなコミュニティや人々が信州の自然や社会の営みの中で日々生み出す、「現場にある知」、「暮らしの中の知」を、つなぎ合わせます。

強みを生かします: (Competency コンピテンシー)

図書館の普遍的な役割である資料・情報の収集・保存・発信・活用について、専門的な知識・スキル・マインドを持つ職員を育成し、強みを生かして社会に貢献します。

挑戦します: (Challenge チャレンジ)

市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長する、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

事業計画 (Action Plan)

- (1) **資料・情報**: いつでも・だれでも・どこからでも、県民が生涯にわたり「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、収集・保存・活用・発信する情報基盤を進化させ、蔵書構成のあり方を総合的に見直します。
- (2) **空間・場**: 実空間である図書館の1~2階のフロア、3階の「信州・学び創造ラボ」を情報空間とつなぎ、それぞれの強みを生かし、融合させながら、知的活動が展開・循環する「場」を進化させます。
- (3) **人材育成**: 潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるために、市町村図書館を始め、文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々と協働し、共に成長していきます。
- (4) **長野県eLibrary計画**: 図書館のさまざまな機能・サービスについて、それぞれ最適な方法でデジタル化・ネットワーク化を進めます。特に「**信州ナレッジスクエア**」の**拡充**と、電子書籍サービスによる**学校との連携、地域資料のデジタル化・発信、読書バリアフリー**を重点的に進めます。

第12期長野県生涯学習審議会「提言」

基本理念 **すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける“シン・生涯学習社会”へ**

真

生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

- ◆ 大人は「学び終えた人」ではない
- ◆ だれもがマルチステージの人生を実現させていく意思と能力を、生涯にわたって持ち続け、それぞれが思い描く幸せに向かって自己変容していくことができる
- ◆ 学びによって、だれもがWell-beingを実感できる長野県を目指す

新

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- ◆ 最新のテクノロジーを最大限活用
- ◆ 年齢によらず「いつでも」学べる
- ◆ 場所の制約なく「どこでも」学べる
- ◆ 「だれとでも」つながり、学び合える
- ◆ 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

信

学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが生きる持続可能な地域社会へ

- ◆ 「答えのない問い」に対して、地域の特性に応じた「自分たちの答え」を探究していく
- ◆ 対話を繰り返しながらつながり、知恵を持ち寄り、信頼を紡いでいく
- ◆ 支える、支えられるという関係を越えて、みんなが主役に
- ◆ 誰一人取り残されることのない、持続可能な地域社会を創っていく

施策の方向性

「生涯学習者」の育成

- ✓ 子ども達の好奇心や感性を刺激し、探究的な学びにつながる環境づくり

働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり

- ✓ リカレント教育・リスキリングの推進
- ✓ 学びほぐし、共創のためのサードプレイス（第3の居場所）づくり
- ✓ 子育て世代の居場所づくり

シニア世代の多様な学びの推進

- ✓ 年齢や心身の状態にかかわらず学び合える場の充実

学びの新しい基盤整備

- ✓ 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- ✓ オンライン学習の活用推進
- ✓ デジタル技術を活用したバリアフリー推進

デジタル・ディバイドの解消

- ✓ 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- ✓ 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

社会的包摂の推進

- ✓ 障がい者の生涯学習の推進
- ✓ 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人、困難を抱える若者等への学習機会の提供

多様性を活かした地域コミュニティづくり

- ✓ 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もが仲間づくり、地域づくりができる公民館活動の推進
- ✓ 公民館等の社会教育施設で、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出すコーディネーターの育成と連携
- ✓ 学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの推進

※「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言」（第12期長野県生涯学習審議会）
（令和4年10月12日）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/goannai/shingikai/shingikai/shogai/>

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

● 最新のテクノロジーを最大限活用

- 年齢によらず「いつでも」学べる
- 場所の制約なく「どこでも」学べる
- 「だれとでも」つながり、学び合える
- 学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県へ

● 学びの新しい基盤整備

- 図書館、公民館、博物館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化（サービスのデジタル化、資料のデジタルアーカイブ）
- オンライン学習の活用推進
- デジタル技術を活用したバリアフリー推進

● デジタル・ディバイドの解消

- 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

総合計画等での位置付け

● 「長野県総合5か年計画」 令和5（2023）年度～令和9（2027）年度

https://www.pref.nagano.lg.jp/kikaku/kensei/soshiki/shingikai/ichiran/sogokeikaku/plan3/keikaku_kouhyou_20230324.html

・ 「学びの風土と自主自立の県民性」

博物館・美術館数や公民館数が全国一多く、人口当たりの図書館数も全国有数であるなど、すべての世代が学べる環境が整い、生涯学習が地域に根付いていることを強みとしている。また「デジタル化、オープン化を進め、県民が地域の歴史や文化芸術にアクセスしやすい環境を充実する」ことを明記。

・ デジタル実装による地方の課題解決

電子図書館サービスの充実や図書館や博物館資料等のデジタル化・オープン化の推進等により、全ての県民にとって学びにアクセスしやすい環境を充実

・ 歴史や文化芸術に興味関心をもつタッチポイントの充実

県立図書館が運用する地域情報資源のポータルサイト「信州ナレッジスクエア」を活用し、県立図書館、県立歴史館、美術館等の資料・収蔵品のデジタル化、オープン化を進めることにより、県民が地域の歴史や文化芸術にアクセスしやすい環境を充実

● 第4次 「長野県教育振興基本計画」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku02/gyose/zenpan/keikaku/keikaku-4.html>

● 第2次 「長野県文化芸術振興計画」

https://www.pref.nagano.lg.jp/seibun/art_plan.html

本日の内容

- 「信州 知の連携フォーラム」で取り組んできたこと
- デジタルアーカイブ「信州デジタルコモンズ」のご紹介
～情報システム基盤の構築・維持・展開～
- 地域資源の価値共有による持続可能な地域創生を
目指して

今後に向けた課題

https://www.ro-da.jp/shinshu-dcommons/library/02BK0104167895

弘化四丁未歳三月廿四夜大地震録

6 / 65

資料コード 02BK0104167895

タイトル 弘化四丁未歳三月廿四夜大地震録

分野 自然 歴史

場所(市町村名)

制作年(西暦) 1847

制作年(西暦)詳細 頃(推定)

制作年(和暦) 弘化4年

制作年(和暦)詳細 頃(推定)

時代 江戸

制作者 不明

制作者(ヨミ) 不明

大きさ

資料解説

弘化4年3月24日夜起こった善光寺大地震およびそれともなう犀川湛水決壊の大災害に関する記録である。筆者の名は明記してないが、内容から推測して、須坂領内中島村の医師中島玄洞であることがわかる。記録は日記の形式で、当(弘化4年)春の様子からはじまり、24日以降は見聞するにしたがって書き留めている。内容は、自家周辺の須坂藩領内のことが中心であるが、近隣の飯山藩・松代藩・善光寺領、西山中などにもふれている。須坂藩内では、藩主・家老・御前様の動向、領内触の書留もあり、親類・知人・患者・富山の薬売りの話から受け取った書状まで、こまめに、具体的に記録している。5月中旬までは詳細であるがそれ以降はしだいに間遠に

信州デジタルコモンズの中
ではユニークなID
機関名、資料種別、
資料IDの組み合わせ

内部DBの保持に
より、リンク切れを
起さない工夫は可能だが
永続性が担保できるか……?

デジタルアーカイブの持続性を高めていくために

● 「デジタルアーカイブ活動」のためのガイドライン(令和5年9月)

デジタルアーカイブジャパン推進委員会実務者検討委員会(事務局 内閣府知的財産戦略推進事務局)

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/

第Ⅰ章 「デジタルアーカイブ活動」をデザインする

	見出し	ねらい
1	デジタルアーカイブの意義を考える	デジタルアーカイブが果たす役割を理解する。
2	「デジタルアーカイブ活動」を考える	デジタルアーカイブに関わる具体的な活動内容について理解する。
3	「デジタルアーカイブ活動」をデザインする	デジタルアーカイブに関する活動にどのように自らが取り組むのかを具体的なイメージをつかむ。

県立長野図書館の
ミッションとしての位置付け
県の総合計画への位置付け
県内MLA(MALUTICS)との
連携協力は進んでいる

第Ⅱ章 「デジタルアーカイブ活動」を自己診断する

1	デジタルアーカイブに組織的に取り組む	「デジタルアーカイブ活動」の持続可能性を確保するため、安定的な体制の構築や方針等の作成など組織的な取組の重要性を確認します。
2	メタデータを整備し、公開する	資料・コンテンツの内容・所在情報(メタデータ)の作成、整理及び提供方法を紹介します。
3	デジタルコンテンツを作成し、公開する	資料等のデジタル化によりデジタルコンテンツを作成する方法と、その公開方法を紹介します。
4	データの二次利用条件を明示し、可能な限りオープン化する	メタデータやサムネイル/プレビュー、デジタルコンテンツの二次利用条件の種類と、活用に望ましいオープンな利用条件の設定を紹介します。
5	持続可能性を担保した方法でデータを管理する	メタデータやデジタルコンテンツなどのデジタルアーカイブのデータの管理について、長期的な保存とアクセスを可能とする方法を紹介します。
6	相互運用性を確保した方法でデータを提供する	メタデータやデジタルコンテンツなどのデジタルアーカイブのデータについて、活用しやすい方法で提供する方法を紹介します。
7	デジタルアーカイブを日常的に活用し、活動を広げる	デジタルアーカイブを活用する機関や個人、活用を支援・推進する人にとってのヒントや留意すべき点を紹介します。

「信州デジタルコモンズ」の
設計思想、システムへの実装、
運用規程としてクリアされている

持続可能性・相互運用性に課題
がある
日常的な活用において、展開して
いくためにも信頼性のあるデジタ
ルアーカイブであることが必要

デジタルアーカイブの持続性を高めていくために

● 持続可能性を担保した方法でデータを管理する

識別子の付与、固定URLの提供を推奨／実現手段としてのJaLC DOI

識別子の付与は、データを共有する際の相互運用性の担保においても重要な取組です。URI (Uniform Resource Identifier) のほか、デジタルコンテンツの識別子として、国際標準規格である DOI (Digital Object Identifier) があります。アーカイブ機関が個別のコンテンツごとに URL を指定してアクセス可能なウェブページを提供している場合は、国際的な流通促進を考慮して、DOI を付与することが考えられます。DOI は永続的な識別子であるため、DOI と紐づく URL の維持・管理が必要ですが、URL が変更されても長期アクセスが保証される点にメリットがあります。DOI の付与には、我が国で唯一の DOI 付与機関であるジャパンリンクセンターの会員になる必要があります。

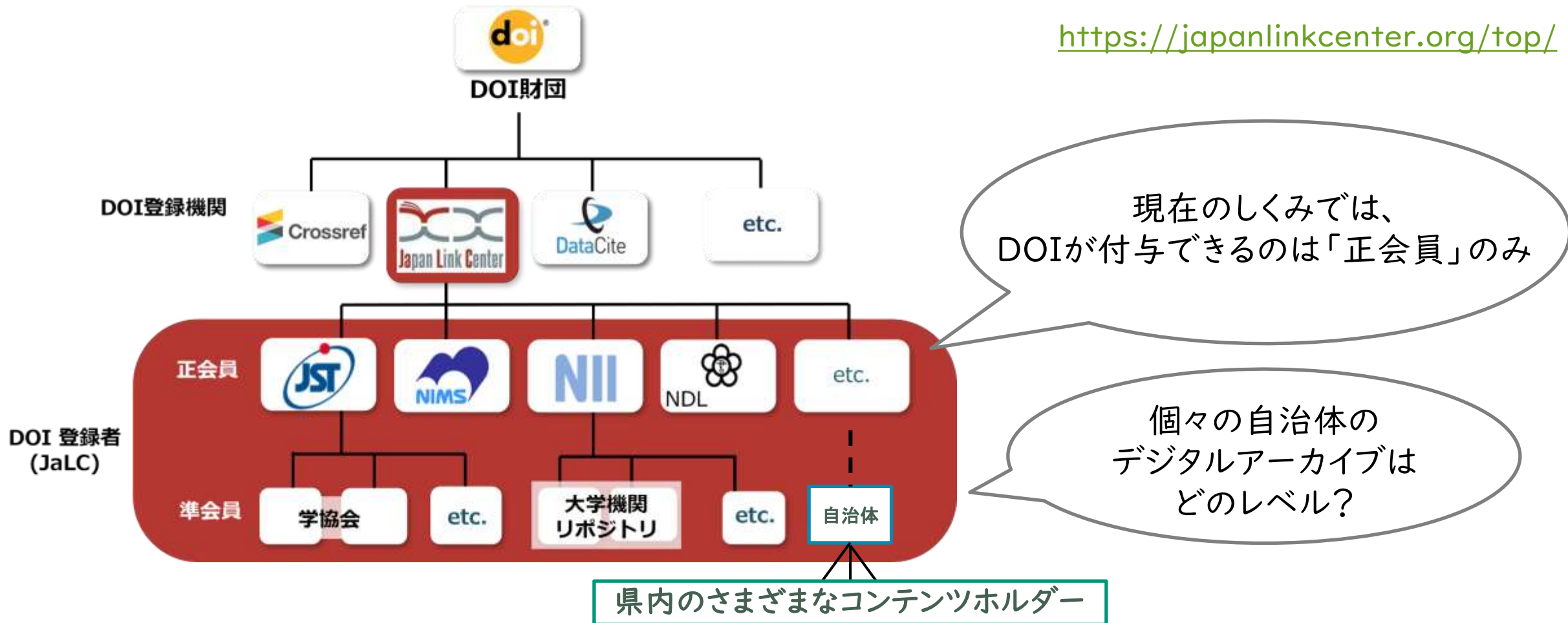
● 課題

- ✓ 「信州デジタルコモンズ」の各コンテンツに JaLC DOI を付与するなどして、デジタルアーカイブのシステム更新等でリンク切れが起きないようにしたいが、現在のしくみの中では、実現が困難。

<参考>デジタルアーカイブの持続性を高めていくために

- 自治体デジタルアーカイブにとってのDOI登録機関のあり方

<https://japanlinkcenter.org/top/>



- データのバックアップやダークアーカイブ等、国家レベルでの検討が必要ではないか

地域文化資源の保全と活用をうながしていくために

● ジャパンサーチ戦略方針



3つの価値:デジタルアーカイブの大切な役割

—デジタルアーカイブが社会を変える3つの価値に注目します

◇記録・記憶の継承と再構築◇

- ・ 過去の記録・記憶を広く収集・整理するとともに、現在進行中の様々な活動を合わせて記録し、未来へ継承する
- ・ リアル空間の事物、アナログ媒体の資料を含む、あらゆる記録・記憶の写しをデジタル空間上に作ることで、それらの継承と再構築を促す
- ・ 入門レベルから専門的情報まで、分野横断的に情報を関連づけて整理する

◇コミュニティを支える共通知識基盤◇

- ・ ひとが学び、考え、議論する時に、コミュニティに共通する知識体系として日常的に利用できる基盤を提供する
- ・ コンテンツのキュレーションによって誰もが自分の発見や思想を表現できるなど、時代に適した新しいコミュニケーションツールを生み出す
- ・ コミュニティが持つ豊かな知識体系を活用して、学びながら遊び、遊びながら学ぶことを可能とし、コミュニティを支えその価値観を次世代に伝える

◇新たな社会ネットワークの形成◇

- ・ 国内外のデジタルアーカイブが相互連携することにより、さらに広範な分野・地域をカバーする知識基盤を構築する
- ・ 異なる分野・地域のひと同士の結び付きや、コミュニティ間のコンテンツ交流が生まれ、新しいアイデアや価値が創造される



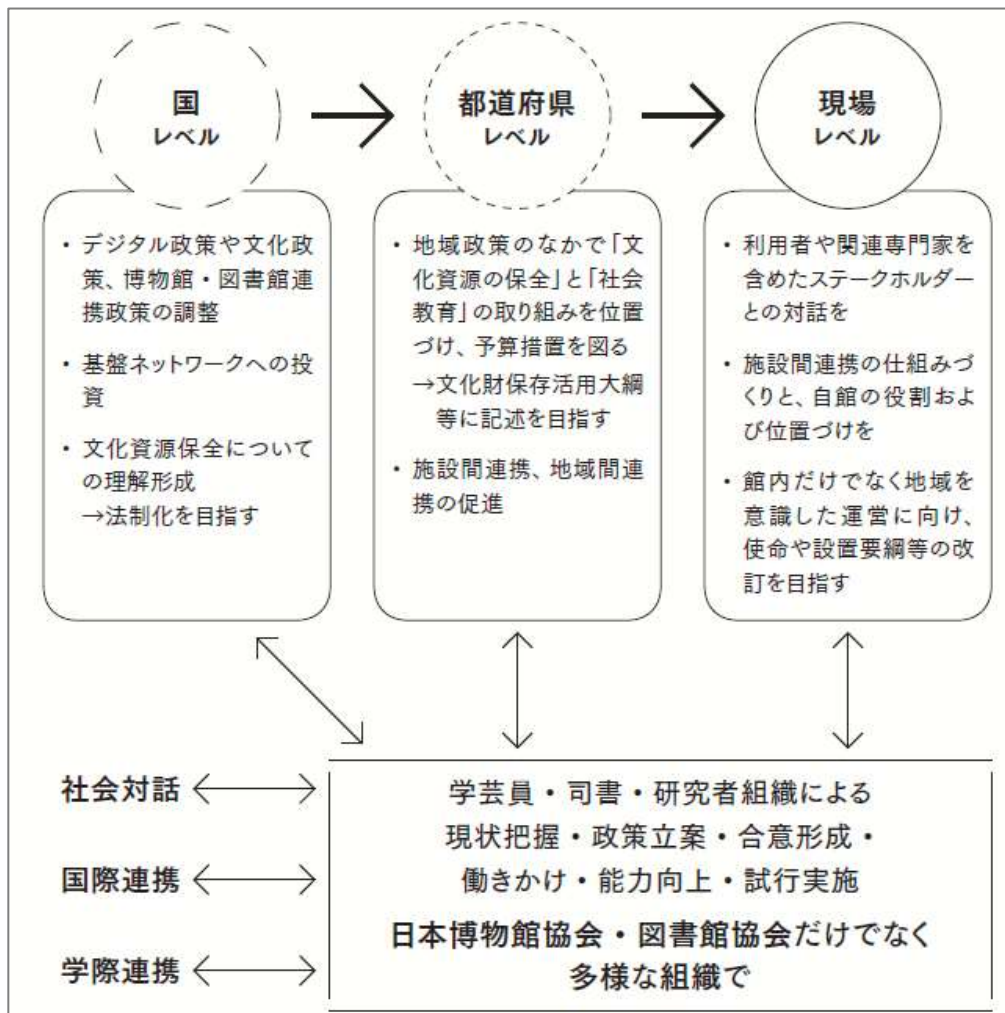
<https://jpsearch.go.jp/about/strategy2021-2025>

単独の地域、
団体、自治体で
取組めることには
限りがある

今後の在り方
について、
関係機関と
相談していきたい

地域文化資源の保全と活用をうながしていくために

- 次世代型文化施設フォーラムからの「提言」 <https://sites.google.com/view/jisedaiforum/>



- ✓ **博物館・図書館等を基盤とした地域文化資源の保全と活用をうながす政策提言**
—文化資源の「地域包括シェア」による地域づくり (VER.2 2023年8月24日)
- ✓ **国レベルに求められる役割**
 - デジタル政策や文化政策、博物館・図書館連携政策の調整
 - 基盤ネットワークへの投資
 - 文科自然保全についての理解形成 → 法制化を目指す
- ✓ **都道府県レベルに求められる役割**
 - 地域政策の中で「文化資源の保全」と「社会教育」の取組を位置づけ、予算措置を図る
 - 施設間連携、地域間連携の促進
- ✓ **さまざまな現場レベルに求められる役割**

出典:佐久間大輔. なぜいま地域文化資源なのか—博物館法改正を契機として『LRG』45 (2023. 秋)

「信州 知の連携フォーラム」 ミッションステートメント(2024・2・1)

地域資源の価値共有による地域創生を目指して

-過去・現在を未来へと架橋するために「信州 知の連携フォーラム」が目指す姿-



<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/mezasukoto/torikumi/mlaforum.html>

※ 図書館法第3条、博物館法第3条にも諸施設等との連携協力の事項が含まれている



信州大学附属図書館長 東城 幸治
長野県立歴史館特別館長 笹本 正治
長野県立美術館長 松本 透
県立長野図書館長 森 いづみ

- より多くのステークホルダーと連携するため、新たにミッションステートメントを策定(2024年2月1日)
- **MLA** (Museum, Library, Archives) → **MALUTICKS** (+University, Theater, Industry, Community, Kominkan, School)

地域資源の価値共有による地域創生を目指して

- 確実な持続性と、堅固でかつ拡張性のある柔軟な**システム基盤**
 - ✓ セーフティネットとしての位置づけ、コンテンツの相互保全、継承
 - ※基盤整備は県で：財源を確保し、技術革新を取り入れ最適化を図る
- 人々の活動成果や暮らしの知恵が蓄積され続ける**文化の醸成**
 - ✓ 信州・学び創造ラボを実験の場として、知の創出・循環のモデル化
 - ✓ MALUTICKS=MLAの文化資産に加えて、研究教育、劇場、企業、日々の暮らしや公民館、学校の中で生み出されるもの
 - ✓ **「文化資源コーディネーター」**のような存在が必要不可欠
 - ※ コンテンツの作成費・活動の経費はそれぞれで
- 国立国会図書館や、さまざまな機関、活動との連携
 - システム基盤、コンテンツ作成、人材、活用の場

身近なところで
お隣さんが取り組んで
いることを知って、
一緒に何かを始めて
みるところから

いついかなる時も、人々の
「知る」「学ぶ」を支えるために
**地域社会の過去・現在を
未来につないでいきたい**

早く行きたければ、ひとりで行け。遠くまで行きたければ、みんなで行け …by DX推進課
If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.